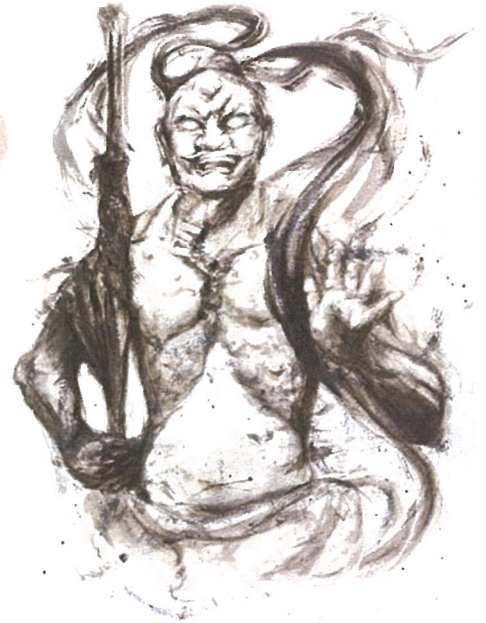


2016年度スローガン

知行合一

～己を律し、仲間を信じて行動せよ！
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて～



「知行合一」とは

中国の明の時代に王陽明が学問である陽明学の命題の一つ。

「知る」ということは行動することの始まりであり、「行動」することは身に着けた知識を完成させることである。

知っているのに行動しないということは、初めから知らないのと同じであり、行動を伴わない知識は未完成であり、何もできないのと同じこと。

はじめに

2013年に創立50周年を迎えた福島青年会議所は、その創始の精神を連綿と受け継ぎ今日に至ります。また、東日本大震災から5年の節目を迎える2016年は、伝統を継承しつつも未来を見据えた運動を展開していかねばなりません。今日まで続く青年会議所の灯を、絶やすことなく次代へ紡ぎ、今まで以上に地域に頼られ求められる存在となるべく運動を展開してまいります。



第53代理事長
高橋 美博

魅力あふれる会員・組織へ

我々は青年会議所会員である前に、一社会人、家庭を持つ者、一人の人間として他に恥じることのないよう行動し、社会に対する責任を果たさなければなりません。JC運動と両輪をなすJC活動の分野においても、それぞれが魅力あふれる責任世代の人間として成長することが求

められ、その行動こそが会員拡大へとつながると確信しています。また、日々の多様な社会情勢の変革に即座に対応する組織であるべく、しっかりと未来を見据え、確固たるビジョンを確立し、運動を展開しなくてはなりません。

会員拡大の重要性・今が始まりの時

昨今、青年会議所は全国的に会員減少に頭を悩ませています。経済の飽和や少子高齢化による人口減少問題などが原因に挙げられますが、会員の拡大こそが青年会議所の根幹を担う事業であり、必ずや達成しなくてはならない命題です。会員拡大の意義を自覚し、覚悟を決する今こそが、始まりの時です。我々は、志を同じうするものをさらに集い、力を合わせ明るい豊かな社会実現に向けた運動を、キャピタルJC（県都JC）としての誇りを胸に、大規模な会員拡大に邁進します。

希望を担う子どもたちへ

地域の未来は子どもたちの未来と密接に関わりを持ちます。子どもたちの心に思い描く夢や地

域愛の醸成のために「わらしっ子塾」を開催し、さらに子どもたちの心身を鍛えるべく「わんぱく相撲」を開催します。また、青少年のみならず、青年期の若者たちへの夢と希望を育み、未来を描く機会を提供することが、この後の人生に大きなインパクトを与え、地域の未来へ寄与するものと信じ、福島の「希望」を育成します。

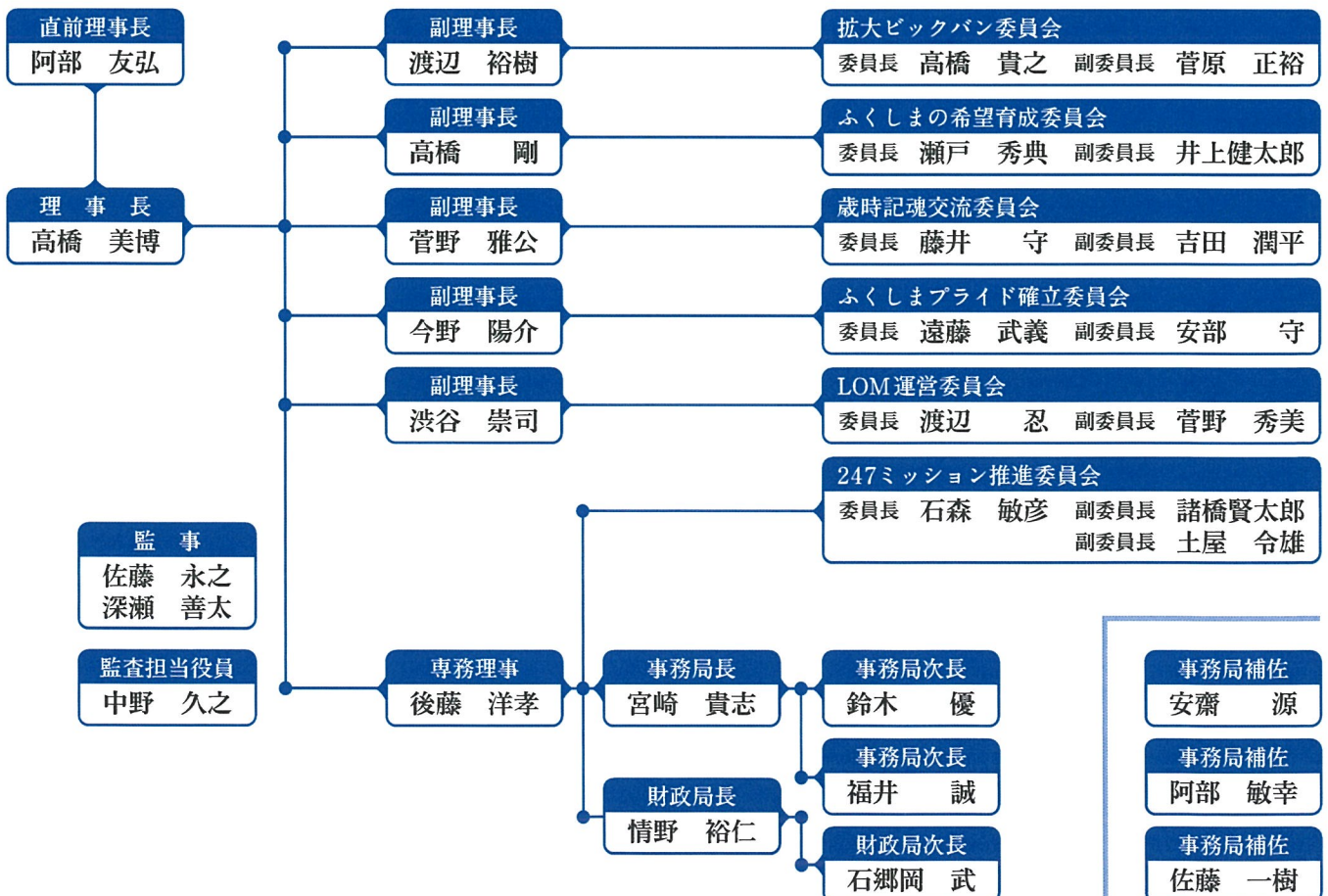
福島市の伝統と魂で 地域、全国、世界との交流を

東日本大震災以降、福島市は多くの注目を集め全国各地からの支援をいただき、それに応えるべく福島の魅力を発信してきました。福島わらしまつりはその知名度も上がり、全国、世界へと飛躍をしようとしています。この機会を活かし、わらじを活用した繋がりを活動地域のみならず、全国各地や広くは世界まで理解を深めるべく、福島の魅力を活かし積極的に交流します。

福島市に住み暮らす誇りの確立

福島に生まれ育ったことに対して誇りを持ってもらいたい。一度は故郷を離れたとしても、いつかまたこの福島に戻りたい。そんな想いを浸透させるべく、ソーシャルストックを活かした魅力づくりを発信することで地域愛を醸成します。地域が魅力的であれば、この地域へ戻りたいと思う人も増え、人口増にもつながります。人口が増えれば経済もまわり、地域が安定して発展するという地域社会のモデルケースを確立するべく、中心市街地活性化に関する事業を実施します。また、2012年度より続く「新ふくしま未来構想」に基づく事業を実施するとともに、有事の際に向けた福島市社会福祉協議会との災害支援相互協定締結を目指し、安全安心なまちづくりの一端を担います。福島の魅力を再認識するとともに、市民のみならず全国へ伝搬するべく運動を展開することで福島の誇りを確立します。

2016年組織図



確実な LOM 運営と

法人格維持継続に向けた取り組み

公益法人格を有する団体として、より確実かつ正確な LOM 運営が求められます。議事録作成や諸会議の運営ルールなど、まだまだ会員に浸透しきれない要素が多々あります。だからこそ、会員一人ひとりが自覚を持ち、LOM 運営を知るべく、法人格維持継続に向けた特別チームを構成し、定期的な勉強会を開催します。また、正確な情報の受発信を徹底します。さらに、各種会議における議事録作成を通し、個々人のスキル向上と次代へ紡ぐべく運営の基盤を築き上げます。

青年会議所会員としての使命

福島青年会議所では新入会員の割合が増え、入会3年未満の会員が半数に達します。まずは J C を、Jaycee としての使命を知る必要があります。また、J C 運動と J C 活動の真の意味を知ることによって一人の人間・社会人としてのありかたを学ばなくてはなりません。また、市民目線で物事を考えれば、入会一年目も十年も変わらない福島青年会議所の一員です。だからこそ LOM アカデミーを開催し、会員一人ひとりの知識向上、資質向上に努めるとともに、福島青年会議所創始の精神も学び、会員としての使命を醸成します。

結びに、愛する地域の未来のために

我々が生まれ育ったまちは今、東日本大震災以降、過渡期を迎えております。風評被害は感じられなくなってきたのではなく、風化へと変わりつつあるのではないのでしょうか。自覚をしながら行動が伴わないということがないかと、常に自問自答をし、己を律し続けなくてはならないとの思いが、日を追うごとに強くなります。

青年会議所の門戸を叩き、11年の年月が過ぎようとしています。誰一人として知り合いのいない中、只々夢中に青年会議所運動に邁進してまいりました。青年会議所に入会していなければ、今の自分はいなかったといっても過言ではありません。青年会議所があったからこそ仲間ができ、地域を愛し、未来を思い描く機会をいただきました。青年会議所が目指す明るい豊かな社会の実現に向け、私がいただいた経験と同じように機会の提供に努め、仲間とともに未来を創造してまいります。

私の信念である言葉『知行合一』は、真に知るということは必ず行動が伴うという意味を持ちます。自らの行動に責任を持ち、家族や会社、青年会議所の仲間、そして我々を育てくれる地域に対する感謝の気持ちを忘れることなく、一年間職責を全うすることをお約束いたします。

己を律し、仲間を信じ、相手を認め感謝を忘れるな。
常に自らが先頭に立ち、汗をかくことを忘れるべからず。
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて。



拡大ビックバン委員会

委員会スローガン

つながりこそが自己の力に変わる
～楽しさがつくりだす**仲間**の輪～



当委員会では、今年度も一斉拡大運動を行い、仮入会制度を引き続き活用し、拡大メンバーが拡大運動の基軸となるように率先し行動します。過去の拡大運動をメンバーとともに検証し、より効率的な拡大運動を行っていきます。又例会時には総決起集会を開催し、会員の拡大に成功した講師による講演会のもと、会員拡大への手法につなげていきたいと思えます。明るく豊かな社会の実現へ向け、会員拡大は急務となっています。己を律し、仲間を信じ、相手を認め、感謝を忘れない、そんな思いをもって多くの仲間たちと共に未来へとつないでいく、そんな会員拡大をしていきます。

副理事長 渡辺 裕樹

委員長 高橋 貴之

副委員長 菅原 正裕

委員

追分 裕太 杉本 渉

太田 憲一 鈴木 泰憲

大宮 篤 新田浩亜吉

岸 秀樹 吉田 卓弘

齋藤 久志 神保 卓朗

ふくしまの希望育成委員会

委員会スローガン

育てよう地域の宝、行動しよう地域のために

ふくしまの希望育成委員会は小学生を対象としたわらしっこ塾の開催、中高生を対象としたふくしまの未来育成塾の開催、わんぱく相撲の開催・引率を行います。



本年度、ふくしまの希望育成委員会では、次の3本柱で事業を展開します。まず、わんぱく相撲福島 LOM 大会で、両国国技館での全国大会出場を目指す小学生をサポートし、礼を学び感謝する心を育てます。次に、小学生の夢を具体化させる事業としてわらしっこ塾、中高生を対象に夢を具現化させる事業として、ふくしま未来塾を開催します。わらしっこ塾、ふくしま未来塾とも仕事をテーマにし、将来この福島で働き地域を支える人間、そして福島で起業する人間を育て、近い将来福島が明るくは誇りに溢れる町になるよう、希望に満ち溢れた若者にそれぞれが転機となるような機会を提供します。

副理事長 高橋 剛

委員長 瀬戸 秀典

副委員長 井上健太郎

委員

大和田 諒 芝田 裕哉

今泉 敏徳 丹野 裕美

尾形優一郎 馬場 貴裕

菅野 仁美 八島 成友

駒田 晋一

歳時記魂交流委員会

委員会スローガン

誇りに溢れる福島のために・・・やっつれ!

- ・福島わらじまつりに関わる全事業の参画
- ・福島の伝統文化を伝承し郷土愛を醸成する事業の開催
- ・地域経済団とのまつりを生かした交流の推進
- ・会員拡大運動の実施



歳時記魂交流委員会は、福島のソーシャルストックである「信夫山」「わらじ」を活用した事業を展開してまいります。最大級のコミュニティの復活のために、「第4回暁まいり福男福女競走」の開催をスタートに東北六魂祭、第47回福島わらじまつり、わらじを活用した遠征、式典等の事業を LOM、地域経済団体との協力で福島の元気を全国、世界へ発信してまいります。誇りに溢れるまち福島の実現に向け「ワッショイ」して行きましょう。

副理事長 菅野 雅公

委員長 藤井 守

副委員長 吉田 潤平

委員

阿部 真澄	鈴木 正人
安齋 源	芳賀 眞
遠藤 翼	松田 覚
菅野慎一郎	渡邊 裕太
國分 秀晃	

ふくしまプライド確立委員会

委員会スローガン

市民の地域愛を呼び覚まし、誇り溢れるまち福島を実現しよう

福島市は豊かな自然と都市とが共存する美しいまちであり、また先人達が築き上げてきた文化や伝統が息づいた素晴らしいまちです。順調に発展を遂げてきた福島市ですが、震災以降はその有形無形の被害から市民は自分達のまちに自信を持つことが難しい状況です。そこで、ふくしまプライド確立委員会は、委員会メンバーが力を結集するとともに福島青年会議所全体を巻き込み、未来を見据えたまちづくりを行うことで中心市街地活性化や安心安全なまちをかたちづくり、さらには福島の魅力を中心に伝播させることで市民の地域愛を醸成するとともに福島の誇りを確立し、誇り溢れるまち福島を実現することを方針と致します。

ふくしまプライド確立委員会は、福島市の未来を思い描き、まちの発展に寄与することを使命としています。

当委員会では、全国からランナーが集い信夫山を駆け抜け植樹を行う「信夫山パークランニングレース 2016」、若者世代が福島市に必要なものを探る「中心市街地活性化事業」、福島青年会議所の災害への即時即応体制実現のための「福島市社会福祉協議会との災害協定締結」、そしてこれからの福島市に必要なものとは何かを示す「ふくしま未来構想事業」、これら4つの事業を行います。

2016年度のスローガン「知行合一」の精神の下、高橋理事長の目指す「誇りに溢れるまち福島」の実現に向けて委員会一丸となって取り組んでまいります。



副理事長 今野 陽介

委員長 遠藤 武義

副委員長 安部 守

委員

阿部 秀介	黒澤 俊之
阿部 敏幸	酒井 隆弘
石郷岡 武	佐藤 充孝
伊藤 大地	松村 知幸
尾形 彰彦	山村 忠之
菅野 誠也	

LOM運営委員会

委員会スローガン

地味だなんて言わせない！
明るく楽しく活動して、福島青年会議所を支えよう！

53年目を迎える福島青年会議所において、当委員会では、LOMの基盤となる活動を展開して参ります。例会、新年会、創立記念祝賀会、卒業式の設営はもとより、JCホームページの運営、Web版JCニュースの発行を通して情報を発信し、理事会議事録の作成、公益法人格維持継続のための勉強会を開催するなど、LOM運営の基盤を築きます。今まで続いてきた灯を絶やすことなく、次代へ紡いでいくために1年間活動して参ります。

今年は、「LOM運営委員会」という委員会名をいただきました。LOM(福島青年会議所)を支えていく担いをいただき、基盤となる活動をしていく委員会ということで、より強い責任を感じています。

当委員会は、表に見える活動は少ないかもしれませんが、他の委員会が事業に全力を注げるように、LOMのことは我々が支えるんだという気持ちで活動をしていきたいと思っています。そのためにも、まずは委員会メンバーが一丸となれるよう、明るく、楽しみながら活動していきたいと思っています。

決して地味な委員会なんかじゃありません。福島青年会議所を支える重要な委員会であることを自負しながら、1年間活動して参りますのでよろしくお願ひします。



副理事長 渋谷 崇司

委員長 渡辺 忍

副委員長 菅野 秀美

委員

井上 義郎	佐藤 一樹
紺野 秀元	佐藤 大輔
近野 正樹	多田 悠紀
齋藤 栄太	丹治 史博
斎藤 秀人	野尻 伸吾

247ミッション推進委員会

委員会スローガン

唯心論
「素晴らしいLOMへの成長を～」

- ・VMVセミナー
- ・インパクトセミナー
- ・入会セミナー
- ・LOM内アカデミー

当委員会は会員全ての皆さまにJCを理解し、よりJCを好きになって頂くために新たに設立された委員会です。

1年間を通してさまざまなプログラムを開催し、JCの知識や魅力を伝えていきます。



専務理事 後藤 洋孝

委員長 石森 敏彦

副委員長 諸橋賢太郎

土屋 令雄

委員

倉島 央樹	鈴木 優
-------	------